

# 壊滅的被害の漁師町

宮古市北部の田老地区は、太平洋に面する田老漁港を中心に街並みが形成された漁師町だ。アワビやウニの磯漁やワカメ、コンブ

## 記憶の碑

いしぶみ

～遺構編～

### 宮古市・たろう観光ホテル

宮古市田老のたろう観光ホテルは、2階部分まで壁が押し流され、むき出しの鉄骨をさらしたまま6階建ての建物が現存する震災遺構だ。一目で高さ17に及んだ津波のすさまじさを伝え、時の流れとともに存在

### 最上階で見える真実

当時の北海道奥尻島やインドネシアのスマトラ島の被害が記憶に新しく、「この津波も記録に残さなくては」と映像を撮り始めた。程なく第2波とみられる高波が押し寄せ、あつという間に住宅などを直撃。田老漁港付近を見下ろすように撮影していた映像は一時、建物の軒先を見上げるようなアングルになる。

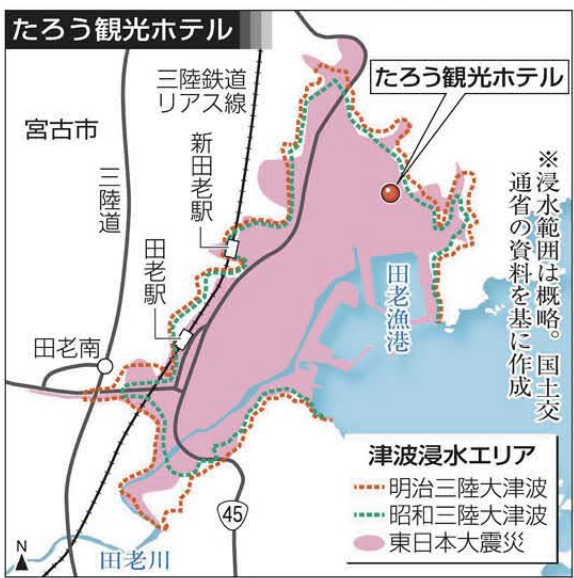
### 生の声伝える重要性



「未来への伝言」 宮古観光文化交流協会 学芸防災ガイド 元田 久美子さん(83) 2012年4月から、約18万人が学ぶ防災ガイドを利用した。震災遺構のたろう観光ホテルは「物語の語り部」。そこに年間約2万人の来訪者の息がかかっているから、建物が生きて、遺産を活用するまっすぐにもつながっていく。災害は忘れたらこぼれてくる



高さ10mの防潮堤が倒され、壊滅的な被害を受けたたろう観光ホテル周辺＝2011年3月13日



現在のたろう観光ホテル(中央右)周辺。右後方の高台には再建された住宅が立ち並び(本社小型無人機で撮影)

酷な状況に立ち向かいながら、ビデオカメラを握りしめた。生々しい映像は、松本社長があの晩を明かしたホテル6階でしか公開していない。巨大災害の教訓はその時々最大の知恵、後世に受け継がれてきたが、災禍は繰り返された。あの日と同じ撮影場所で見ると



この連載は岩手日報HPでも公開し随時更新します

## 間寛平さん被災地走破

### みちのくマラソン 宮古ごとゴール

東日本大震災被災地の復興を願ってタレントの間寛平さんが岩手、宮城、福島3県の沿岸地域を走る「RUN FORWARD KANPEI みちのくマラソン2020」は14日、宮古市宮町のイーストピアみちのくにゴールした。



被災3県を走り、宮古市でゴールした間寛平さん

新型コロナウイルス感染症対策のため住民は集めず、同市職員が大漁旗を掲げて出迎えた。両手を上げて「復元に向かう中で、東北の方には本当に辛抱強い。来年は今年同様に出会った人も触れたい」と誓った。

## 震災津波伝承館が日本展示学会賞に

### 陸前高田、本県初の受賞

陸前高田市気仙町の東日本大震災津波伝承館「いわてTSUNAMIメモリアル」は、優れた展示作品に贈られる本年度の日本展示学会賞を受賞した。入賞は県内初。震災の事実と教訓を正確に伝える展示の工夫が高く評価された。



日本展示学会賞を受賞した東日本大震災津波伝承館

## パラ五輪種目 奥深さを体感

### 大船渡の末崎小児童

来校し、体育館で実施した車いすバスケットボールは、児童は頭上にあるリングに目標を定め、力いっぱいシュートを打つ。得点が決まると仲間が拍手や歓声を上げて喜んだ。映像を使ったクイズコーナーでは、聖火リレーのトナリには東日本大震災で整備された仮設住宅の一部が使われていることを学んだ。



映像を使ったクイズコーナーでは、聖火リレーのトナリには東日本大震災で整備された仮設住宅の一部が使われていることを学んだ。

## 新支店 復興の一翼に

陸前高田市高田町 大船渡市農協高田支店長 及川 満伸さん(57) お客さまには仮設店舗で迷惑を掛けましたが、12日から新しい支店で業務を開始した。震災発生時も高田支店に勤務し、自宅も被災した。生まれ育ったまちの支店は一番の思い入れがあり、再建されて万感の思いだ。まちの復興はまだスタート地点に立ったばかりで、新支店も一翼を担ってきた。農業者の人たちが長靴で気軽に来店できるように愛され、親しまれ、信頼される支店にしたい。

津波てんでんこ 陸前高田市高田町 山下文男さん

Table with shipping schedule information including ship names, destinations, and departure times.